

研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

当院における G-CSF とプレリキサホル投与下の自家末梢血幹細胞採取の後方視的検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年4月から2023年12月に昭和大学病院血液内科病棟に入院し、末梢血幹細胞採取の処置を受けた患者さん

2. 研究目的・方法

造血器疾患の患者さんにおける自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法の有用性は確立され、広く実施されています。自家末梢血幹細胞移植を行うためには、あらかじめ自家末梢血幹細胞を十分量採取しておく必要があります。これは、幹細胞の生着のために非常に重要なことです。しかし、定常状態では末梢血中ではなく骨髓に造血幹細胞のほとんどが存在するため、末梢血中への動員が必要とまります。一般的には、顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)製剤を用いて動員を行います。2017年より造血幹細胞の動員促進効果のあるプレリキサホルが保険収載され、臨床使用が可能となりました。保険収載後、当院(昭和大学病院)でも、通常の採取前処置では造血幹細胞が十分に動員されずプレリキサホルの投与を行い、自家末梢血幹細胞採取を試みた患者さんがいます。それらの患者さんの診療情報(診断名・年齢・治療歴・白血球・HPC・CD34陽性細胞数)を後方視的解析することにより、安全で効率的な末梢血幹細胞採取実施のための重要な情報が得られると考え、本研究を計画しました。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026年 12月 31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録情報

年齢、診断名、血液学的検査(白血球・HPC・CD34陽性細胞数)、細胞採取における投与薬剤、治療歴

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6．研究組織

研究責任者 昭和大学病院 臨床病理検査室輸血検査室 立石 裕子

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院 臨床病理検査室輸血検査室

氏名：立石 裕子

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8446